

このコーナーでは、静岡の企業が有する隠れた地域産業史的な建造物や文化財などを掘り起こし、紹介します。

製紙の歴史が刻まれた応接室



最先端の技術を駆使する近代的な工場棟が建ち並ぶ巴川製紙静岡事業所。ある二画だけが時間が止まったように、昔の面影をひっそりととどめている。現在、事務所として使われている建物は、頑固に新しいものを拒んでいるかのようだ。年長の社員でもこの建物のなじまりを知るものはなく、この場所に用宗工場(当時)として竣工した1933年(昭和8年)の数年後

の昭和10年代初期のものと思われる。入口の左手には、今も使われている受付の窓口があり、建物内は土足厳禁となっている。廊下には紅の絨毯が敷かれ明るすぎない電球等がよい雰囲気醸成。1階は事務室の他に4、5人用の応接室と会議室、2階は広めの応接室と展示室などとなっている。往年のモダン様式のイメージを残している応接室は、製紙メーカーの歴史を

映しているようだ。窓ガラスもたわんでいて当時のまま、中には昔の貴重な壁紙が残っているところもある。訪問者には評価されても、毎日使う社員にとってはあまり感慨はないのかもしれない。しかし、この新旧のコントラストが強い企業力をくっきりと浮かび上がらせているように思える。

(株)巴川製紙所 静岡事業所
静岡市駿河区用宗巴町3番1号
TEL.054-256-4111

